

## 訪日タイ人の人気観光地ランキング2021

### タイ人の訪日旅行に関する意向調査

#### 人気スポット

富士山が4年連続1位。「銀山温泉」「松本城」などがランクアップ

#### 人気観光地名

昨年に引き続き「大阪」が1位に

#### 都道府県

東京が初めて1位を獲得。観光スポットの認知を得た「山口」が大幅ランクアップ

#### まとめ

249ヶ所のスポットが新たに得票。定番スポットに落ち着きが見られ、来日できない状況でも新スポットの研究が進んでいる

タイ人向け日本旅行情報Webメディア「Chill Chill Japan (チルチルジャパン)」を運営し、日本とタイで自治体や企業に訪日タイ人向けプロモーションをワンストップで提供する株式会社アジア・インタラクショナル・サポート(愛知県名古屋市、代表取締役:青木達夫)は、日本に関心のあるタイ人に「タイ人の訪日旅行に関する意向調査」を実施し、今回「訪日タイ人の人気観光地ランキング2021」を発表します。

この調査は毎年実施し今回が4回目の発表となります。調査はインターネット上で実施、20の設問に対し2,300名のタイ人の有効回答を得ています。今回の調査では、コロナ禍の中でもタイ人が日本に強い関心を寄せ、新たなスポットや観光地を発見し、興味を持ったことが分かる結果となりました。

【調査概要】

- ・ 調査方法：インターネットアンケート調査
- ・ 調査期間：2021年2月08日～2021年3月15日
- ・ 調査対象者：タイ人（日本旅行に関心を持つ）
- ・ 有効回答者数：2,300

【人気観光地の調査・集計の方法】

- ・ 質問項目：「今行ってみたい日本の観光地・施設はどこですか？」
- ・ 回答は記述式のフリーアンサーで5つまで答えることが可能（それぞれが1票）
- ・ 回答の集計は、タイ語を、類推で日本の地名・スポット名に変えることなくそのまま日本語に翻訳し、翻訳された日本語に関しては、明らかに同一地名もしくは同一施設と考えられるもののみ統一して集計。スポットで所在地がはっきりしている場所は、観光地名・都道府県等の集計にそのまま加算している。

【回答者基礎データ】

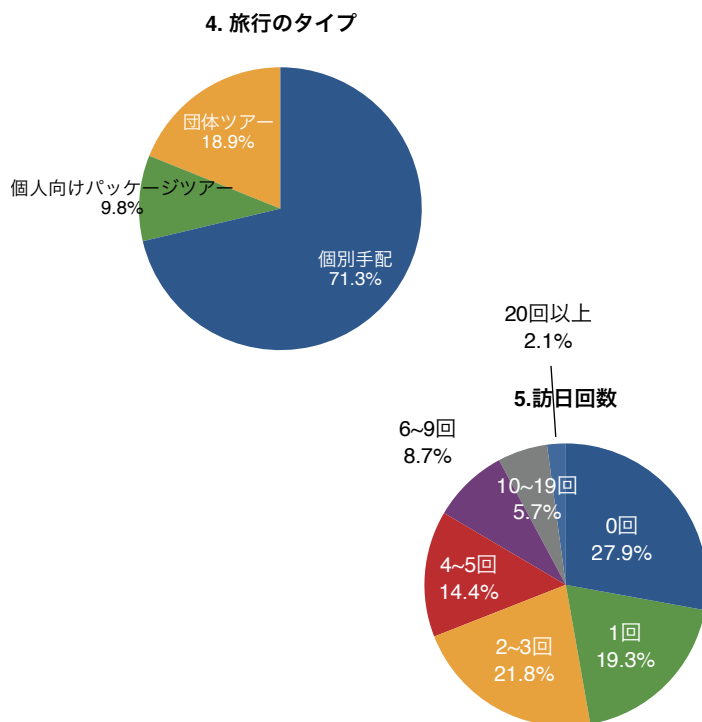
1.性別	割合
男性	26.1%
女性	73.0%
非公開	1.0%

2.年齢	割合
19歳以下	6.3%
20~29歳	22.9%
30~39歳	28.8%
40~49歳	23.2%
50~59歳	12.9%
60歳以上	6.0%

3.月収	割合
30,000バーツ未満	47.1%
30,001~50,000バーツ	32.8%
50,001~70,000バーツ	12.3%
70,001~100,000バーツ	4.5%
100,000~150,000バーツ	1.6%
150,001~200,000バーツ	0.7%
200,001~500,000バーツ	0.6%
500,001バーツ以上	0.2%

4.旅行のタイプ	割合
個別手配	71.3%
個人向けパッケージツアー	9.8%
団体ツアー	18.9%

5.訪日回数	割合
0回	27.9%
1回	19.3%
2~3回	21.8%
4~5回	14.4%
6~9回	8.8%
10~19回	5.7%
20回以上	2.1%



「銀山温泉」「松本城」「ファーム富田」「元乃隅神社」  
「海遊館」「巖島神社」などがランクアップ

1位は4年連続で「富士山」が獲得。得票したスポットは全419ヶ所、うち249ヶ所は今年新たに得票したスポットでした。3年連続2位だった白川郷が3位となるなど、上位のシェアが分散化され、行きたい観光スポットはより広がる結果となりました。「東京スカイツリー」が初めてベスト10入り。そのほか、「銀山温泉」「松本城」「ファーム富田」「元乃隅神社」「海遊館」「巖島神社」などが大幅に順位上げました。また、昨年未オープンした「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」が早速ランキングしていることから、タイ人の日本の観光スポットへの関心の高さが見てとれます。

順位	スポット名	昨年順位	変動
1	富士山	1	-
2	TDR	3	1
3	白川郷	2	-1
4	USJ	4	-
5	河口湖	5	-
6	大阪城	7	1
7	浅草寺	6	-1
8	上高地	7	-1
9	東京タワー	9	-
10	東京スカイツリー	20	10
11	銀山温泉	17	6
12	清水寺	11	-1
13	姫路城	15	2
14	伏見稲荷大社	19	5
14	松本城	37	23
16	ファーム富田	58	42
17	那智の滝（熊野那智大社含む）	28	11
18	金閣寺	16	-2
19	由布院温泉/湯布院	14	-5
20	立山黒部アルペンルート	13	-7
21	国営ひたち海浜公園	28	7
22	嵐山の竹林	28	6
23	日本アルプス	9	-14
23	元乃隅神社	43	20
23	海遊館	32	9
23	ガーラ湯沢	12	-11
23	巖島神社	58	35
28	河内藤園	26	-2
29	ジブリ美術館	32	3
30	サンリオピューロランド	43	13
31	明治神宮	37	6
31	青山剛昌ふるさと館	43	12

順位	スポット名
31	小樽運河
34	皇居
34	富士急ハイランド
36	別府温泉/別府
36	札幌雪まつり
38	沖縄美ら海水族館
39	上野公園
39	草津温泉
41	鳥取砂丘
42	嵯峨野トロッコ列車
42	八方池
42	錦帯橋
45	キロロリゾート
45	黒門市場
45	熊本城
45	高千穂峡
45	渋谷スクランブル交差点
50	藤子・F・不二雄ミュージアム
51	広島平和記念公園
51	五箇山合掌の里
51	白い恋人パーク
51	奈良公園
55	地獄谷野猿公苑
55	阿蘇山
55	蔵王温泉スキー場
58	城崎温泉
58	江ノ島
58	松江城
58	東大寺
58	富士五湖
58	住吉大社
64	宝川温泉
64	乳頭温泉 鶴の湯温泉

順位	スポット名
64	首里城
64	別府ロープウェイ
64	GUNDAM FACTORY YOKOHAMA
64	只見線
70	砕氷船網走
70	アメ横
70	青い池 美瑛
70	天橋立
70	端島（軍艦島）
70	祇園
70	香嵐渓
70	宗谷岬
70	旭山動物園
70	小原四季桜
70	あべのハルカス
70	船岡城址公園（白石川堤一目千本桜含む）
70	黒川温泉
70	忍野八海
84	道頓堀戎橋グリコサイン
84	伊賀流忍者博物館
84	弘前城
84	白谷雲水峡
84	有馬温泉
84	奈良井宿
84	名古屋城
84	天保山大観覧車
84	水のきれいな村（忍野八海?）
84	太宰府天満宮
84	二条城
84	桜島
84	ラグーナテンボス
84	花夢の里

## 「大阪」が昨年に引き続き1位。京都が初の2位に

人気の観光地名では「大阪」が昨年に引き続き1位となりました。「京都」「富士山」や「舞浜」など有名観光スポットを有する地域が上位を維持しています。今年は、「秋葉原」「富良野」「松本」などの地名が大幅にランクアップしました。そのほか上位の地名では、「福岡」「名古屋」「仙台」などは地名での得票が多く、広くタイ人の間で行きたい観光エリアとして認知されていることが伺えます。

順位	観光地名	昨年順位	変動
1	大阪	1	-
2	京都	3	↑1
3	富士山	2	↓1
4	舞浜	7	↑3
5	沖縄	6	↑1
6	白川郷（白川村）	4	↓2
7	札幌	4	↓3
8	福岡	8	-
9	河口湖	12	↑3
10	奈良	14	↑4
11	名古屋	11	-
12	仙台	10	↓2
13	浅草	16	↑3
14	日光	9	↓5
14	渋谷	17	↑3
16	広島	13	↓3
17	秋葉原	41	↑24
18	上高地	20	↑2
19	高山	15	↓4
20	長野	32	↑12
21	小樽	18	↓3
22	青森	30	↑8
23	芝公園	24	↑1
24	新宿	18	↓6
25	上野	30	↑5
25	富良野	46	↑21
27	函館	22	↓5
28	神戸	23	↓5
29	松本	59	↑30
30	静岡	43	↑13

順位	観光地名
31	姫路
32	银山
33	押上
34	山形
35	鳥取
36	和歌山
37	熊本
38	原宿
38	那智勝浦
40	湯布院
41	別府
42	長崎
43	上野
44	立山 大町
45	湯沢
46	秋田
47	お台場
47	伊根
49	福島
49	川越
49	千葉
49	金沢
49	日立
49	鎌倉
55	山口
56	日本アルプス
56	北九州
56	稚内
56	三鷹
56	北栄町

順位	観光地名
56	長門
56	宮島
63	埼玉
63	多摩
65	富士吉田
65	白馬
65	岐阜
68	富山
69	皇居
70	ニセコ
71	蔵王
71	鹿児島
71	大分
74	箱根
74	高千穂
76	豊田
76	岩手
76	阿蘇
76	草津
81	宇治
81	岩国
83	網走
83	軽井沢
83	富士宮
86	佐賀
86	キロロ
86	茨城
86	松江
86	蒲郡
86	岡崎

## 都道府県ランキングでは東京が初めて1位を獲得 観光スポットの認知を得た「山口」が大幅ランクアップ

「大阪」「東京」「北海道」の上位3都道府県が順位入替となり、「東京」が初めての1位獲得となりました。トップ10の顔ぶれに変化はないものの、「京都」が徐々に順位を上げ5位になっています。そのほかに「愛知」「広島」「兵庫」などは堅実に得票が伸びています。さらに今年は「銀山温泉」での得票が伸びた「山形」や、「元乃隅神社」や「錦帯橋」で認知を向上させた「山口」が大幅にランクアップするなど、人気の観光スポットの得票を反映して順位に変化が見られました。今年も都道府県別では全都道府県が得票を得ており、下位の都道府県も得票率は徐々に伸びてきている傾向にあります。

順位	都道府県	昨年順位	変動
1	東京	2	↑1
2	北海道	3	↑1
3	大阪	1	↓2
4	山梨	4	-
5	京都	6	↑1
6	静岡	5	↓1
7	岐阜	7	-
8	長野	8	-
9	千葉	9	-
10	沖縄	10	-
11	福岡	11	-
12	愛知	14	↑2
13	広島	15	↑2
13	兵庫	16	↑3
15	山形	20	↑5
16	神奈川	18	↑2
17	奈良	19	↑2
18	宮城	17	↓6
19	和歌山	18	↑4
20	栃木	13	↓7
20	青森	22	↑2
22	大分	26	↑4
23	富山	16	↓7
24	鳥取	27	↑3

順位	都道府県	昨年順位	変動
25	山口	37	↑12
26	埼玉	25	↓1
27	熊本	29	↑2
27	新潟	21	↓6
29	福島	23	↓6
30	秋田	28	↓2
31	茨城	32	↑1
32	長崎	30	↓2
33	群馬	31	↓2
34	鹿児島	36	↑2
35	宮崎	41	↑6
35	岩手	33	↓2
37	三重	34	↓2
38	石川	37	↓1
39	佐賀	35	↓4
40	岡山	37	↓3
41	島根	40	↓1
42	愛媛	41	↓1
42	滋賀	43	↑1
44	香川	44	-
45	徳島	45	-
46	高知	45	↓1
47	福井	45	↓2

## 249ヶ所のスポットが新たに得票。定番スポットに落ち着きが見られ、来日できない状況でも新スポットの研究が進んでいる

新型コロナウイルス感染症の影響により2020年のタイ人観光客は激減となりましたが、2019年に日本を訪れたタイ人観光客は131万人。今回の調査でも回答者の72%が訪日経験があるなど日本へ旅行するタイ人は増加傾向にあり、新型コロナウイルス収束後も旅行需要が回復すればこうした傾向が継続されるものと思われます。

今回の調査における観光スポットランキングの上位には、自然・四季、世界遺産、大都市、伝統的な日本などをイメージさせるスポットが並びタイ人の期待が読み取れます。また、タイでは体験できないことという観点から雪や温泉、テーマパークなどのスポットなどもランクインしています。絶大な人気を持つ「富士山」や「白川郷」はトップ3に今年も名を連ねていますが、得票シェアを見るとそれぞれ3~5ポイントほどシェアを落としてもいます。今回の調査で得票した観光スポットは419ヶ所で、そのうち約60%の249箇所が昨年得票のなかった新規のスポットでした。今年はコロナで訪問することができない前提の調査であったからか、雪にまつわるスポットのランクダウンが見られます。一方で「銀山温泉」「札幌雪まつり」などは順位を上げています。新規のスポットでは、昨年末オープンした「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」が多くの得票を得てランクインしていることから、コロナ禍においてもタイ人の訪日観光への情報感度が高いことが見てとれます。

人気の観光地名ランキングでは「大阪」が昨年に引き続き1位となりました。続いて「京都」が2位にランクアップ。そのほか、「富士山」や「舞浜」など有名観光スポットを有する地域が上位を維持しています。また、観光地名ランキングでは、プロモーションの成果で新たにランクインした自治体もみられました。「岡崎」「蒲郡」は昨年度、タイ人向けのオンラインツアーをはじめコロナ禍においてもタイ向けプロモーションを実施しており、その際に紹介したスポットの得票をを含めて大幅にランクアップしています。

都道府県別のランキングでは、トップ10の顔ぶれに変化はないものの、「愛知」「広島」「兵庫」などは堅実に得票が伸びています。「元乃隅神社」や「錦帯橋」で認知を向上させた「山口」が大幅にランクアップするなど、人気の観光スポットの得票を反映して順位に変化が見られました。山口県も昨年度、タイ現地イベントへの出展などPRを積極的に行っておりその効果が反映された形です。

\*今回、アンケート調査結果から人気観光地ランキングをご紹介します。今後、回答データを元にタイ人の日本旅行に関するデータを定期的に発表させて頂く予定です。

## 媒体と弊社の紹介

### Chill Chill Japan



Chill Chill Japanはタイ人に向けて日本旅行情報を発信するWebメディアです。タイ人が日本旅行をする際に参考となる観光地情報やショッピングやグルメ情報など様々な情報を提供しています。

2015年12月の サイト開設から1年10ヶ月の短期間で月間110万PVを突破し、月間150万PV、ユニークユーザー65万人を記録し、タイ人向け日本旅行情報WebメディアでNo.1と評されるようになりました。

- ・ Chill Chill Japanの詳細(日本語) <https://exptours.net/column/chillchilljapan/>
- ・ Chill Chill Japan 公式ウェブサイト <https://chillchilljapan.com/>
- ・ Chill Chill Japan 公式facebookページ <https://www.facebook.com/chillchilljapan/>

### 株式会社アジア・インタラクション・サポートについて

AISは、自治体や企業の訪日タイ人向けプロモーションを支援する会社です。2019年は、100団体250以上のタイ案件を実施し、次の3つの強みを同時に持つ日本で唯一の会社です。

#### ■バンコクデスクを拠点としたワンストップでのご提案

弊社バンコクデスクは、500以上のタイ現地メディアや200社以上のタイ現旅行会社等と強いリレーションがあるためタイ向けのプロモーションに関しては幅広いご提案が可能です。

#### ■自社メディアや独自データを保有、費用対効果の高いプロモーションが可能

タイ向けNo.1の訪日旅行情報WebメディアChill Chill Japan および 毎年実施している2,000名規模のタイ人調査データを活用し、効果的なプロモーションを実施しております。

#### ■10年間タイ向けのインバウンド事業に携わってきた実績

AISではこれまで多くのタイ向けの公共事業に携わり、事業を行ってきた実績がございます。タイ向けのプロモーションに特化した日本人の担当者が直接対応しております。

なお、AISは他にもメディア運営事業・旅行事業・宿泊事業と3つの事業を展開。これらの事業を通じて、訪日外国人に対して日本の観光情報やツアーや宿泊を提供し、できる限り高い満足を得ていただくことを目指しています。また、これらの事業から得たノウハウを皆さまに提供し、持続性ある集客および収益を効果的にプロデュースしています。当社に関するより詳しい情報は、<https://exptours.net/> をご覧ください。